

Title	臨床コミュニケーションの冒険
Author(s)	本間, 直樹
Citation	臨床哲学のメチエ. 2002, 10, p. 16-17
Version Type	VoR
URL	<a href="https://hdl.handle.net/11094/5634">https://hdl.handle.net/11094/5634</a>
rights	
Note	

*Osaka University Knowledge Archive : OUKA*

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

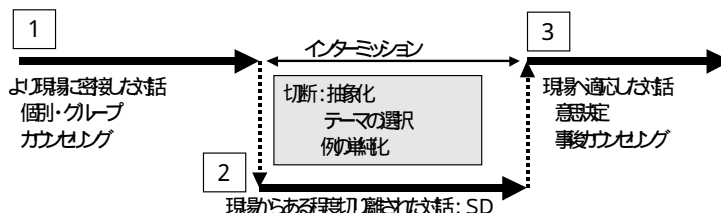
Osaka University



床コミュニケーションの領域  
横断的なネットワーク形成  
(一般国民の参加) 3. 臨床  
コミュニケーションの倫理と  
統合プログラムの構築に焦点  
を当て、新しい臨床コミュニ  
ケーション文化の構築を視野  
に入れる。こうして、死生と  
いう根本的な問題を含む、市  
民のニードとインタラクト可  
能な科学技術政策の立案・実  
施に貢献することを目的とする。

## 対話コンポーネントのモデル

1. 事前カウンセリング(個別・集団)による聴取と  
テーマの査定(情報集と問題の掘起こし)
2. ある程度抽象化したテーマを査定し、テーマ別に集  
中対話を行う(SDなど: 10人以下の小規模なもの)
3. 2で話し合ったことを1で得た周囲のコンテ  
キストに当てはめる



現在は、このような臨床コミュニケーションの具体的モデルの一つとして、複数の対話方式を組み合わせた「対話コンポーネント」を制作中である。これは主に欧州で実践されている哲学的対話方法「ソクラテック・ダイアログ(SD)」を基礎にし、また現在ウィーン高等研究所が行なっている「異種移植」に関する社会調査型SDを参照しつつ、それを改良・拡張するかたちで構想された。これは現場当事者・関係者における相互理解の生成、問題の発見・共有、対話スキルの促進・教育のための方法として、政策立案を含む公共的意思決定過程や各臨床現場において広く活用されることを目指している。

(ほんまなおき)

### 高校での哲学教育 福井高校について

三浦隆宏

臨床哲学研究室では、今年の四月から大阪府立福井高等学校(茨木市)において、「出会いのてつがく」という選択科目を提供するようになった。福井高校は昨年度から『普通科総合選択制高等学校』としてリニューアルされ、生徒一人ひとりの興味・関心に応じた多彩な「エリア履修科目」や「自由選択科目」を設定しているユニークな高校である。当研究室では、一昨年度から院生が授業見学に訪れたり、また「ドリカム講座・マンガからテツガクへ」(全5回)を行うなどして連絡を取り合っており、今回「選択科目のひとつとして「哲学」の授業を担当しませんか」というお誘いを受け、喜んで引き受けることになった。

時間帯は、毎週火曜日の5・6限。研究室の院生数人が中心となってプロジェクトチームを組み、臨床哲学に関わる多彩な人たちの協力を仰ぎながら、授業内容の企画立案、および実行にあたっている。毎回生徒たちに関心を持ってもらうかに苦心し、工夫を重ねながらこれまでやってきた。現在、ようやく二学期が終了したところであり、また院生も個々の研究活動との両立に苦慮しているため、今回のメチエでの「経過報告」は見送り、次回に特集を組んで一年間の授業をまとめたいと思っている。(みうらたかひろ)